

2019 年度  
自己評価報告書

2020 年 6 月 6 日  
東武医学技術専門学校

# 目次

I. 学校の概要		
1. 学校名	.....	P1
2. 所在地	.....	P1
3. 沿革	.....	P1
4. 設置課程・学科	.....	P2
5. 学生数及び教職員数	.....	P2
6. 施設の概要	.....	P2
II. 評価の基本方針		
1. 自己評価実施方法	.....	P2
2. 学校関係者評価実施方法	.....	P2
3. 自己評価の項目	.....	P2
III. 今年度の重点目標及び取り組みと方策、その成果と結果		
1. 重点目標	.....	P5
2. 取り組み状況	.....	P5
3. 成果・結果	.....	P6
4. 課題と今後の取り組み	.....	P6
IV. 項目毎の記述		
◎自己評価の項目		
(1) 教育理念	.....	P7
(2) 学校運営	.....	P8
(3) 教育活動	.....	P9
(4) 学修成果	.....	P12
(5) 学生支援	.....	P14
(6) 教育環境	.....	P15
(7) 学生募集	.....	P17
(8) 財 務	.....	P18
(9) 法令等の遵守	.....	P19
(10) 社会貢献・地域貢献	.....	P20
(11) 国際交流	.....	P21

# I. 学校の概要

1. 学校名および学校長名  
 (学校名) 東武医学技術専門学校  
 (学校長) 間部 克善

2. 所在地  
 埼玉県さいたま市岩槻区飯塚 50 番地

## 3. 沿革

年 月	事 項
昭和 45 年 12 月	埼玉県岩槻市(現さいたま市岩槻区)に校舎設立。 名称を「東武医学技術専門学校」とした。
昭和 46 年 3 月	臨床検査技師学校養成所指定規則(省令第3号)に合致するものとして、厚生大臣(現厚生労働大臣)の指定を受け開校。(1 学年 40 名定員) 初代学校長関根芳太郎就任。
昭和 46 年 4 月	開校、授業開始。
昭和 49 年 3 月	第一期生卒業、全員臨床検査技師国家試験に合格。
昭和 49 年 11 月	校舎増築。
昭和 50 年 4 月	1 学級増の許可を受け、1 学年 2 学級で定員 80 名となった。
昭和 52 年 9 月	初代学校長関根芳太郎逝去に伴い、第 2 代学校長に中村一夫が就任。
昭和 53 年 3 月	学校教育法(昭和 22 年法律第 26 号)第 82 条の 8 第 1 項の規定に合致し、専修学校となる。
昭和 55 年 11 月	創立 10 周年記念式典開催。
昭和 61 年 3 月	私立学校法(昭和 24 年法律第 270 号)第 64 条第 5 項の規定に合致し、学校法人となる。 学校教育法(昭和 22 年法律第 26 号)第 82 条の 8 第 1 項の規定により、東武医学技術専門学校の設置者変更が認可。
昭和 62 年 3 月	医療情報科を新設認可。
昭和 63 年 5 月	火災により、校舎の 3 分の 2 を焼失。
平成 元年 3 月	新校舎建築着工。
平成 元年 12 月	新校舎完成。
平成 2 年 4 月	新校舎落成式並びに創立 20 周年記念式典開催。
平成 3 年 10 月	第 2 代学校長中村一夫退任により、第 3 代学校長に田宮高行が就任。
平成 5 年 4 月	医療情報科を医療秘書科に名称変更。
平成 5 年 7 月	第 1 回海外研修旅行を実施。(研修先：アメリカ合衆国)
平成 7 年 8 月	創立 25 周年記念式典。紀要第 1 刊発行。
平成 9 年 4 月	医療秘書科を医療ビジネス科に名称変更。
平成 10 年 3 月	第 3 代学校長田宮高行退任により、第 4 代学校長に城田恵次郎が就任。
平成 18 年 11 月	第 1 回学術研究発表会実施。
平成 20 年 4 月	健康食品管理士認定協会より、同管理士養成指定校として認定。
平成 22 年 4 月	医療ビジネス科の休校(募集停止～廃科)。
平成 22 年 7 月	旧校舎耐震補強工事着工。(～平成 22 年 9 月完了)
平成 22 年 11 月	創立 40 周年記念式典。
平成 24 年 3 月	国際医療教養科を新設認可
平成 25 年 4 月	第 4 代学校長城田恵次郎退任により、第 5 代学校長に川口克彦が就任。
平成 26 年 5 月	グラウンド完成。
平成 27 年 3 月	国際医療教養科を募集停止～廃科。
平成 29 年 1 月	第 5 代学校長川口克彦退任により、第 6 代学校長に頓所澄江が就任。
平成 29 年 4 月	第 6 代学校長頓所澄江退任により、第 7 代学校長に間部克善が就任。

4. 設置課程・学科

分野	課程名	学科名	備考
医療	専門課程	臨床検査科	昼間部のみ

5. 学生数及び教職員数（2019年5月1日現在）

(1) 学生数 **入学定員** 80名 **総定員** 240名

第1学年	第2学年	第3学年	合計
71名	68名	73名	212名

(2) 教職員数

教員	職員	合計	嘱託・パート
11名	5名	16名	5名

6. 施設の概要

校舎名	所在地	構造	面積(m <sup>2</sup> )	教室・実習室等
岩槻校舎	さいたま市岩槻区 飯塚 50 番	鉄骨造陸屋根 亜鉛メッキ 鉄鋼葺 4階建	3,318.33	第1・2実習室, 階段教室, 普通 教室, キャリア支援室, 図書室, 教務室, 事務室, 物理・化学・ 臨床生理実習室など
総合教育 センター	埼玉県幸手市大字長間 12 埼玉県北葛飾郡杉戸町 大字並塚 1645	鉄骨造陸屋根 3階建	657.34	分析研究棟
	埼玉県幸手市大字長間 10・12	鉄骨造陸屋根 3階建	1,096.73	生理機能・病理実習棟

## II. 評価の基本方針

1. 自己評価実施方法

本校の定める「自己評価実施規程」に基づき、学校長、事務長、教務部長及び選任された教職員で構成する7名の自己評価委員会において、前年度の報告書を参考に、評価項目の設定の見直しおよび改善点などを考慮し、本年度の点検・評価を行う。

2. 学校関係者評価実施方法

本校の定める「自己評価実施規程」に基づき、選任された学校関係者評価委員による同委員会を開催し、学校の自己評価報告書の確認及び評価に対する妥当性と成果について検証するとともに、それらに対する評価及び改善点についてご意見を聴取する。

3. 自己評価の項目

自己評価の項目は、以下に示す11項目を大項目とし、項目ごとの「点検すべき具体的事項」を抽出し、それに対する回答を「自己評価」という形式とした。また、点検評価にあたり、根拠とした資料については、次表に掲げる資料を参考とした。

なお、評価項目等については、「専修学校における評価ガイドライン」（平成25年3月生涯学習政策局）及び「学校評価を活かした専修学校の質保証・向上に向けて～専修学校における学校評価実践の手引き～」(平成27年3月文部科学省委託事業、「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」)を参考とした。

	大項目	点検すべき具体的事項	根拠資料等
(1)	教育理念	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理念・目的・育成人材像は定められているか</li> <li>・学校における職業教育の特色は何か</li> <li>・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか</li> <li>・理念、目的、育成人材像、特色、将来構想などが学生、保護者、関係業界等に周知されているか</li> <li>・学科の教育目標、育成人材像は、対応する業界のニーズに向けて方向付けられているか</li> </ul>	<p>学則、内規、学校要覧、学校案内、学生ガイドブック、HP</p>
(2)	学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的及び事業計画に沿った運営方針が策定されているか</li> <li>・運営組織や意志決定は、規則等において明確化され、有効に機能しているか</li> <li>・人事、給与に関する制度は整備されているか</li> <li>・教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか。</li> <li>・業界や地域社会に対するコンプライアンス体制は整備されているか。</li> <li>・教育活動に関する情報公開が適切になされているか。</li> <li>・情報システム化等による業務の効率化が図られているか。</li> </ul>	<p>理事会・評議員会議事録、月例会議事録、教務委員会議事録</p>
(3)	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育理念等に沿った教育課程の編成や実施方針が策定されているか</li> <li>・教育理念、育成人材像や臨床検査技師養成施設としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか</li> <li>・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか</li> <li>・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携、また、キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発、作成・見直しなどが実施されているか</li> <li>・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技、実習等)が体系的に位置づけられているか</li> <li>・授業評価の実施・評価体制はあるか</li> <li>・授業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか</li> <li>・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか</li> <li>・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか</li> <li>・人材育成目標に向け授業を行うことのできる要件を備えた教員を確保しているか</li> <li>・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか</li> <li>・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか</li> <li>・教職員の能力開発のための研修等が行われているか</li> </ul>	<p>カリキュラム、講義要項(シラバス)、年間行事予定表、各種研修会参加状況</p>

	大項目	点検すべき具体的事項	根拠資料等
(4)	学修成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職率の向上が図られているか</li> <li>・臨床検査技師国家試験の合格率の向上が図られているか</li> <li>・退学率の低減が図られているか</li> <li>・卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか</li> </ul>	定期試験の成績記録、国家試験合格率、就職率、進級率、退学率
(5)	学生支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路や就職に関する支援体制は整備されているか</li> <li>・学生相談に関する体制は整備されているか</li> <li>・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか</li> <li>・学生の健康管理を担う組織体制はあるか</li> <li>・課外活動に対する支援体制は整備されているか</li> <li>・学生の生活環境への支援は行われているか</li> <li>・保護者と適切に連携しているか</li> <li>・卒業生への支援体制はあるか</li> <li>・同窓会が組織化され、活発な活動を行っているか。</li> </ul>	学生ガイドブック、学内連絡システム（e-pa）利用状況、奨学金の利用状況
(6)	教育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか</li> <li>・学内外の実習施設設備や海外研修の場所など、十分な教育環境の整備がなされているか</li> <li>・防災に対する体制は整備されているか</li> </ul>	校舎の図面、建物および備品台帳、教室及び実習室等の現況、図書貸出ノート
(7)	学生募集	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組を行っているか</li> <li>・学生の募集活動は適正に行われているか</li> <li>・学生募集活動において、資格取得、就職状況の情報は正確に伝えられているか</li> <li>・学納金は妥当なものとなっているか。</li> <li>・入学辞退者に対する授業料の返還は適切に処理されているか</li> </ul>	学校案内、募集要項(入試方法や日程など)、HP、広報媒体、学校訪問状況など
(8)	財 務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中長期的に学校の財政基盤は安定しているか</li> <li>・予算や収支資金計画は、有効かつ妥当なものになっているか</li> <li>・財務について会計監査が適正に行われているか</li> <li>・財務情報公開の体制整備は出来ているか</li> </ul>	決算報告書（事業報告書）、財務諸表、監査報告書
(9)	法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法令、専修学校設置基準、養成所指定規則などの遵守と適正な運営がなされているか</li> <li>・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか</li> <li>・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか</li> <li>・自己評価の結果を公開しているか</li> </ul>	就業規則、学則、個人情報保護規程など
(10)	社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献、地域貢献をしているか</li> <li>・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか</li> <li>・地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか</li> </ul>	ボランティア活動等の記録、学外研修会などへの参加状況
(11)	国際交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生の受け入れ、派遣について、戦略をもって国際交流を行っているか</li> <li>・受け入れ派遣等において適正な手続き等がとられているか</li> <li>・学修成果が国内外で評価される取り組みを行っているか</li> <li>・学内での適切な体制が整備されているか</li> </ul>	海外研修等の状況

### III. 今年度の重点目標及び取り組みと方策、その成果と結果

#### 1. 重点目標

##### (1)教務・学事・学生支援

###### a.国家試験対策

- ・学生に対して、早い段階での国家試験に対する意識を強く持たせる。
- ・非常勤講師との連携を強化する。
- ・成績不良者に対する面接や補習の早期対応。

###### b.就職支援

- ・求人の早期化に対応した実習期間中の支援強化と個別指導の充実。
- ・3年間を通してのキャリア教育の連携。

###### c.学生対応

- ・学生のメンタルな部分について、早期発見及び早期対応を実践し、教職員一体となって、一人の学生の対応にあたる。
- ・保護者との連携を強固にし、教育にあたる。

###### d.教員

- ・専任教員の体制強化による学生教育の充実のため、増員を考える。

###### 教員及び職員のスキルアップ

- ・教職員は、各種学会や研修会への積極的な参加に努め、学校としてそのバックアップの充実を図る。

##### (2)入学者選抜

- ・選抜方法は前年度と変わることは無いが、入試要項に記載の本校のアドミッションポリシー（「理念」と「求める学生像」）を基本とし、定員確保はもちろんではあるが、入学生の質の向上を目指した入学者選抜を実践する。

##### (3)学生募集・広報活動

- ・新年度の学生確保にあたっては、確実な定員確保に努めることとし、臨床検査技師の認知度アップ対策が重要課題であり、引き続き学校訪問及び体験入学などを行いつつ、SNS等を強化し学生募集、広報活動に努める。
- ・広報活動費は、前年度予算程度とするが、各広報業者の内容を十分検討し、より有効な広報活動費の使用に努める。

##### (4)奨学金制度

- ・国が検討を行っている高等教育無償化に向けた情報を一早く確認し、制度が開始された場合は早急に対応し学生の学費支援に繋げる。

#### 2. 取り組み状況

##### ① (1)についての取組状況

- ・過去問分析と過去問取り組みを後期集中授業からではなく冬季休業前より実施する。
- ・非常勤講師室への伝達関連掲示や講師会における分科会の充実と懇親会の設定を行う。
- ・学生相談室の設置及び担任等による面談の実施と情報の共有を開始している。
- ・教員増員に向け卒業生等に声掛けや募集の周知及び特別講義等で教育への参加を実施。
- ・業務に支障がない範囲で自己研鑽に努められるよう部門ごとに職員体制の調整等を行うとともに、これまでに実施してきた臨床検査技師会等への会費を学校が負担するなどの支援を継続して行う。
- ・キャリア支援関係資格取得者と担任教員等が協力し、学生連絡システムを利用し実習期間中もキャリアニュースの配信等を行うとともに、個別の添削や面接練習及び相談を強化。

##### ② (2)~(3)についての取組状況

- ・高等学校訪問、業者による高校内及び会場開催のガイダンスへ参加し広報に努める。
- ・オープンキャンパス（体験入学・学校説明会）にて教育内容、職務内容等の周知を図る。
- ・媒体及び製作費に関して費用対効果を検討し参画及び政策を検討する。
- ・LINE や Instagram 等の SNS にて、高校生等への共感コンテンツを積極的に発信する。
- ・社会人向けの相談会やチラシを作成する等既卒者の学び直し支援に繋げる。

### ③ (4)についての取組状況

- ・文部科学省や日本学生支援機構の説明会へ参加等、情報の収集を行う。

## 3. 成果・結果

- (1) 上記①の取り組みについて、鋭意努力を重ねた結果以下のとおりとなった。
  - ・国家試験合格率 93.9%から 70.3%へダウンした。
  - ・講師会の終了後に懇親会を開催するなどし、非常勤講師との親睦を図った。
  - ・学生相談室の案内をトイレに設置している。
  - ・今年度より教員 1 名増員したが年度途中で退職となった。教員募集を続け、次年度より教員 1 名、実習助手 1 名の新規採用が決定した。
  - ・臨床検査技師会の会費支援及び学会参加支援等を実施した。
  - ・就職への動き出しが遅く、年によって動き方の違いがあり課題が残った。
- (2) 上記②の取り組みについて、鋭意努力を重ねたが結果以下のとおりとなった。
  - ・募集人数における合格者数は定員にあたる 80 名となったが、大学における繰り上がり合格等による入学辞退が多く、新入生 57 名と定員を下回る結果となり、2020 年度の 1 年生は、定員に対して 21 名少ない 59 名（留年生 2 名含む）でのスタートとなった。
  - ・広報費は費用対効果を考え実行し適正に予算を執行、体験入学参加者増員に寄与した。
  - ・SNS 等により若者への共感による広報強化を実施し、LINE 特典の模擬面接には昨年を上回る参加者を獲得した。
- (3) 国の新規政策である「高等教育無償化」に関する申請を行い適正校に認定された。

## 4. 課題と今後の取り組み

- (1) 国家試験対策の徹底的な強化。
  - ・過去問 5 年分の分類分けを 2 年生 12 月から実施。
  - ・3 年生模擬試験対策の早期化（成績不良学生の前期からの指導）し、9 月模擬試験成績を伸ばす。
  - ・聴講生用に前期の早い時期から授業を開始（前期土曜日、8 月集中、冬季集中）
- (2) 学生募集の取り組み強化
  - ・若い世代が入学者の中心となることを踏まえ「共感」を中心にとらえた取り組み強化
  - ・学校訪問を継続的に実施し高等学校へ周知徹底及び信頼関係構築の強化
  - ・SNS や動画コンテンツの「共感」コンテンツ充実と発信強化
  - ・気軽に問合せできる公式 LINE を使った相談会の実施
  - ・体験遊学の内容を見直し、体験入学から受験に繋がる取り組みを検討
- (3) 就職支援の充実。
  - ・3 年間連携して行うキャリア教育。
- (3) 臨地実習に向け OSCE（客観的臨床能力試験）の実施強化と必修化。
- (4) 実質 2 年間で臨床検査技師に必要な知識と技術の習得の推進を図り、成績の伸びない学生に対して、個別指導と気持ちを盛り上げるための指導法を検討する。
- (5) 高等教育無償化制度の適正運用と、経済的な問題を抱える学生に対する奨学金制度の検討。



#### IV. 項目毎の記述

##### (1) 教育理念

評価項目	具体的方策と取り組み
<ul style="list-style-type: none"> <li>・理念・目的・育成人材像は定められているか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学則に掲げる「目的」に添って、臨床検査科の理念を定めている。また、その理念に従い、臨床検査科としてディプロマポリシーに育成人材像を示している。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校における職業教育の特色は何か</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療現場で活躍する臨床検査技師を育成するためのカリキュラムとし、実学教育に重点をおいた教育内容としている。医療現場に必要な講義・実習を実施するため、多くの実務経験がある講師を配置している。医療人に求められる人間形成のため、カリキュラム以外の学校行事を多く取り入れている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業界関連団体との関係を強固にし、今、求められる人材像を捉え、将来を見据えた教育システムを検証し構築している。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・理念、目的、育成人材像、特色、将来構想などが学生、保護者、関係業界等に周知されているか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校案内、学生募集要項及びHPに本校の理念・目的・育成人材像・特色・学内の取り組みなどについて詳細に記載。また、入学式やオリエンテーション、保護者会の時に教職員から説明を行っている。</li> <li>・本校の理念を反映させたシンボルマークの意味や教育目的を本校入り口に大きく掲示し、学生だけでなく来校者にも周知するよう努めている。</li> <li>・学内行事や取り組みについては、学校新聞『臨床検査技師のタマゴ』（定期発行）を全生徒に配布し、全員の保護者に送付している。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学科の教育目標、育成人材像は、対応する業界のニーズに向けて方向付けられているか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校職員が、役員として臨床検査技師関連団体と関わりを持ち、常に臨床検査技師業界の求められる方向性について、最新の情報を得るようにしている。</li> <li>・育成人材像を示すディプロマポリシーには、知識・技能・倫理観・問題解決能力・コミュニケーション能を有した者としており、業界関連団体で重要視されている検査の精度管理や推し進められているチーム医療への参画では、知識・技能・倫理観・問題解決能力・コミュニケーション能の全てが必要となる。</li> </ul>
成 果 と 課 題	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校案内、学生募集要項及びHPに本校の理念・目的・育成人材像・特色・学内の取り組みなどについて、詳細に記載した。</li> <li>・前期、後期始める際にオリエンテーションを実施し、学則や医療の現場で求められる臨床検査技師像について、説明を行った。</li> <li>・保護者会は、1年生及び2年生は、年2回ずつ、前期と後期に授業参観と共に実施し、保護者に学校の取組や現在の学生状況の説明、進級要件の説明等を行った。3年生の保護者会は年1回9月に開催し、前期に終了した臨地実習の内容について、「臨地実習説明会」と共に開催した。3年生の保護者会では、就職状況や卒業要件について、説明を行った。保護者会の際には、保護者に対してアンケートを実施し、概ね、学校の取組に対し理解してもらっていることを確認している。</li> <li>・臨床検査業界の最新の情報を得るため、臨床検査技師の免許をもつ教職員全員、日本臨床検査技師会（以下、日臨技）に入会し、研修会や学会に参加している。また、その職員の中の1名は、埼玉県臨床検査技師会（以下、埼臨技）に理事として参加し、別の1名は臨床検査技師教育に関わる日本臨床検査学教育協議会（以下、日臨教）に学会評議員として参加している。更に、埼臨技が主催となる養成校連絡協議会に本校は参加し、埼臨技との連携を強めている。</li> <li>・日臨技主催の日本医学検査学会や首都圏支部・関甲信支部医学検査学会、埼玉県医学検査学会に教職員が参加することで、日臨技として考える検査の精度管理について、平成29年の検体検査や遺伝子検査の</li> </ul>	

<p>精度保証の内容や、チーム医療への参画について、検査説明・相談ができる臨床検査技師や、検体採取、病棟や在宅医療への貢献、認知症領域検査技師など求められる検査技師像を捉える参考となっている。</p>
<p>学校関係者評価コメント</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「医療現場で活躍する臨床検査技師を育成するためのカリキュラムとし、医療現場に必要な講義・実習を実施する」とあるが、いずれ医療現場以外の社会的進出についても念頭に置いておく必要がある。</li> <li>・教員として現場や技師会から情報を得ることは重要な事であるが、教育者として他方面の講習や学会で研鑽することは重要と思う。</li> <li>・良質な臨床検査技師養成の教育理念のもと努力している。カリキュラム以外の学校行事を多く取り入れ学生のキャンパスライフに貢献している。</li> <li>・臨床検査技師に求められている人材を養成するために、常に教育内容を改善し、課題に対処、フォローアップしている姿勢は評価されることである。</li> <li>・教育理念を学校案内、学生募集要項、HPに記載しているとのことであるが、「学生ガイドブック」にも1ページ加えた方がよい。3つのポリシーは在学中もこの気持ちを忘れずに授業に向かって欲しい。</li> <li>・保護者に向けての現状報告は充分行われていると考える。</li> <li>・臨床検査業界の最新情報を得るため、教員が日本臨床衛生検査技師会への加入、埼玉県臨床検査技師会へ理事や委員会委員として積極的に活動し連携を深めている。</li> <li>・教育理念はホームページ、学校パンフレット等でしっかりとステークホルダーに掲示されている。職業人を育てるという理念のもと、わかりやすい教育理念である。</li> <li>・保護者や常勤講師、臨地実習施設などとコミュニケーションをとる機会があり、評価できる。</li> <li>・業界関連団体等の関係も強く、業界内の情報や動向などを速やかに把握できることは教育現場では非常に有用である。</li> </ul>

## (2) 学校運営

評価項目	具体的方策と取り組み
<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的及び事業計画に沿った運営方針が策定されているか</li> <li>・運営組織や意志決定は、規則等において明確化され、有効に機能しているか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当該年度の予算及び新たな事業計画については、前年度後半に運営会議により予算原案を策定し、寄附行為の定めにより、評議員会に諮問して理事会で決定している。</li> <li>・理事長、法人事務局、学校長のもと、教務部、事務部がそれぞれの運営組織として有効に機能するよう配置し、組織図の明示などを行い、指示・命令系統の周知を行っている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・人事、給与に関する制度は整備されているか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就業規則、給与規程、退職金規程、育児・介護等に関する人事労務関係諸規程のほか、倫理及びリスクコントロールについて文章整備をしている。</li> <li>・労働基準法の改正等にあわせて、学内の規程の見直しを進めている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教務部、事務部の当該年度及び中長期の事業計画の方針については、毎年度はじめに全教職員で「活動目標」を書面で提示し、それを基に全体の基本方針や進め方を確認している。</li> <li>・部門ごとの長が各担当者から提示された基本方針案を確認し、経費等が必要な場合には、予算編成に反映させるなど、組織的な意志決定システムを構築している。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・業界や地域社会に対するコンプライアンス体制は整備されているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専修学校設置基準及び臨床検査技師養成所指定規則等を常に確認し、教職員数、学生数、機器備品の整備状況など常時把握できる体制を整えている。</li> <li>・コンプライアンス委員会の設置による学内の法令遵守に努めている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育活動に関する情報公開が適切になされているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校新聞やホームページによる教育活動状況の発信、また、保護者会の開催による定期的な授業公開を実施している。</li> </ul>

<p>・情報システム化等による業務の効率化が図られているか。</p>	<p>・財務管理、人事・労務管理、教務情報管理、学生管理などと広報活動などと連動した情報システムを構築し、効率化を図るよう暫時整備している。</p>
<p>成 果 と 課 題</p>	
<p>・当該年度の予算についてはおおむね予算通り、計画通り執行できている。予期しない事項については、その都度補正予算を編成し評議員会及び理事会に諮って承認を得て執行している。</p> <p>・次年度予算は入学者減少に伴い、予算縮小と経費節約が課題となる。</p> <p>・人事、給与、労務管理に関する規程について、それぞれ整備されているが、労働基準法の改正などに合わせた、現行規程の内容の見直しを常に検討していく必要がある。</p> <p>・学校新聞による教育活動の発信、保護者会については一定の成果を得ているが、ホームページの内容の充実や、他の情報発信の方法の検討など、教育活動の情報公開についてさらに進めていく必要がある。</p> <p>・倫理及びリスクコントロールや申請書類などの学内規則の整備、就業規則の改定を行った。</p> <p>・月例会議等により教職員管理の適性運用に努めた。</p> <p>・コンプライアンス委員会により、学校運営や学生に係るリスク及び危機管理に努めた。</p> <p>・教務情報管理、募集管理、財務・会計管理等のシステムに関して、使用方法等検討しつつより効率化を図った。特に、財務・会計では、学校法人会計に特化したシステムを採用しており、マニュアルを活用し適切な運用に努めた。</p>	
<p>学 校 関 係 者 評 価 コ メ ン ト</p>	
<p>・全学一致で学校運営に努めている。学生中心の運営を更に強化してほしい。</p> <p>・細菌に対するリスクコントロールとして3月中に教職員・学生・関係者に対し、本学としての新型コロナウイルス感染防止に関する「基本方針」を決め、初期の段階で学内やHPに開示して周知徹底する必要性があったのではないかと。</p> <p>・予算、事業計画を評議委員会で諮問し理事会で決定し運営に反映されている。</p> <p>・事業計画をもとに長期計画を作成し、それを実行に移すため、中期計画及び短期計画を実施し年度ごとに計画の実行について年度末などに達成内容と課題を見直し翌年の運営に反映させることで明確な事業計画が策定できるものと思われる。</p> <p>・学校運営に関しては、教職員一丸となり取組んでおり、かつ理事評議委員なども一致団結して知恵を出し合い進めている様子が見える。現況での金銭的な収支も確保できており法定基金も適正に積み立てられている。公的補助金も少ない中で経済効率もしっかり考えて運営した成果であり結果が多岐にわたり出ている。</p> <p>・将来的に専門職大学院の開設を是非やっていただきたい。専門学校が専門職大学院を開設しているところは多くなっている。卒業生や大学を卒業した者が更なる学業を研鑽する場所があってもいいのではないかと思う。</p> <p>・働き方改革が叫ばれているなか、教職員の業務量や業務時間が負担になりすぎないように効率的なシステムや制度を検討する必要がある。</p>	

### (3) 教育活動

<p>評 価 項 目</p>	<p>具体的方策と取り組み</p>
<p>・教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか</p>	<p>・臨床検査科の理念を基に「アドミッションポリシー」、「カリキュラムポリシー」、「デュプロマポリシー」を定めている。また、当該理念に従い、教育課程の編成・実施方針について学生ガイドブックと、講義要項(シラバス)に明記。</p>
<p>・教育理念、育成人材像や臨床検査技師養成施設としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか</p>	<p>・3年間の修業年数において、学年ごとの教育到達レベルや学習時間について、学則第3章に定める「教育課程・履修方法及び卒業等」(別表の授業科目表含む)及び細則に必要時間数を明記し、講義要項(シラバス)に教育到達レベルを明記している。</p>

<p>・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか</p>	<p>・臨床検査技師学校養成所指定規則及び臨床検査技師養成所指導要領に従い、授業科目を「基礎分野」「専門基礎分野」「専門分野」「選択科目」に分け、さらに教育の内容ごとに指定単位数を明記し、3年間の学習で「基礎分野」「専門基礎分野」「専門分野」の順になるよう編成を行っている。</p>
<p>・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携、また、キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発、作成・見直しなどが実施されているか</p> <p>・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技、実習等)が体系的に位置づけられているか</p>	<p>・卒業に必要な総時間数 3,440 時間のうち 1/3 以上となる 1320 時間の実習時間を設け、実践的な教育を行っている。また、講義、実習含めて実務経験を有する講師による授業を総時間数の半分以上 (1,810 時間、50 単位)、設けている。</p> <p>・教育方法の工夫や臨床検査技師育成のためのカリキュラムについて、また科目の連携を図るため、年 2 回の講師会(教育課程編成委員会)を開催している。</p> <p>・臨地実習先病院等の指導者と本校教職員による年 1 回の臨地実習施設連絡会(教育課程編成委員会)を行い、臨地実習前教育、臨地実習における教育内容の見直しを行っている。</p> <p>・臨地実習は 2019 年の臨地実習から 10 単位として 3 年次の 4 月初めから 7 月末まで実施している。</p> <p>・1 年次から 3 年次までカリキュラムや学年行事に含め、キャリア教育を行えるよう各学年の目的を 2019 年度より定めた。1 年次は医療人に必要な基本的資質を養うことを、2 年次は臨地実習や医療現場で働くための準備を、3 年次は自分の将来となる理想検査技師を具現化することを目的とした。</p>
<p>・授業評価の実施・評価体制はあるか</p>	<p>・ネット環境を利用した授業評価を行い、学生からの評価、講師からの評価を行っている。年 2 回開催している講師会にて半期ごとに報告を行っている。</p>
<p>・授業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか</p>	<p>・学年ごと保護者会にて保護者参加型の授業を実施し、保護者からの意見を伺っている。</p>
<p>・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか</p>	<p>・成績評価、単位認定の基準は、学則(細則を含む)および講義要項(シラバス)に明記している。</p> <p>・定期試験の後、試験解説期間を設け、各科目担当教員より、学生へ試験解説を行い、成績評価基準の説明を行っている。また、成績評価について、申し立て期間を設け、成績評価申し立ての受け入れを行っている。</p> <p>・学生の成績や単位取得状況を正確に把握し、年 2 回開催する講師会において報告している。講師会で話し合い、学校として教育レベル及び学生の修学レベルの確保に努めている。</p>
<p>・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか</p>	<p>・必修科目は臨床検査技師学校養成所指定規則及び臨床検査技師養成所指導要領に従い、臨床検査技師国家試験合格のためのカリキュラム編成となっている。</p> <p>・選択科目は、語学やキャリア教育、各種認定試験に向けた科目を取り入れ、毒物劇物取扱責任者の試験を 2 年次に受けさせている。</p>
<p>・人材育成目標に向け授業を行うことのできる要件を備えた教員を確保しているか</p>	<p>・専任教員のうち 8 人は、臨床検査技師免許持っており、臨床経験のある経験豊富な教員を確保している。</p> <p>・兼任教員についても、大学教員や病院や研究所等の検査技師長など様々な経歴を持った教員を確保している。</p>
<p>・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか</p>	<p>・臨地実習先や、埼玉県臨床検査技師会、本校同窓会に依頼し、退職等により欠員が出た場合も含め、常勤・非常勤講師の確保を行っている。</p> <p>・卒業生を中心に医療現場で活躍する臨床検査技師の方に、2 年次臨地実習前の特別講義や、3 年次臨床検査総合演習の分野別講義において、特別講義の講師を依頼している。</p>

<p>・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか</p>	<p>・第 68 回日本医学検査学会、日臨技首都圏支部・関甲信支部医学検査学会(56 回)、第 14 回日本臨床検査学教育学会学術大会など各種学会への参加や、日本臨床検査技師会主催等の研修会の参加など、外部研修を促している。</p> <p>・学内就業規則及び研修規程を整備しており、教職員の資質向上及び指導力向上に繋がる体制が整えられている。</p>
<p>・教職員の能力開発のための研修等が行われているか</p>	<p>・教職員のための内部研修を検討していたが、2019 年度に関して学内研修は実施していない。</p>
<p>成 果 と 課 題</p>	
<p>・年 2 回開催した「講師会」(「教育課程編成委員会」同時開催)において、令和 3 年から施行される国家試験出題基準の対応や学生の学習への取組改善について検討を行い、2020 年度から臨地実習前試験が臨地実習に行く前に必須になるよう細則の変更を行うこととした。</p> <p>・年 1 回開催した「臨地実習施設連絡会」(「教育課程編成委員会」同時開催)において、臨地実習前試験の内容について検討を行い、本校の実施しているキャリア教育の内容について意見を伺った。</p> <p>・「講師会」「臨地実習施設連絡会」(「教育課程編成委員会」同時開催)を通して、2022 年度から改定される予定の指定校規則に対応する新カリキュラムに対する意見を伺い、引き続き、検討を行うこととした。</p> <p>・検体検査分野の専任教員を 1 名確保し、1,2 年生の実習補助から 3 年生の国家試験対策、補習等に入ってもらい、教育を充実させた。残念ながら退職希望により 2 月末で退職となり、代わりに 2020 年度 4 月より、専任教員を 1 名、実習助手 1 名の新規採用を決定している。</p> <p>・医療現場で活躍する臨床検査技師の方に特別講演講師をお願いし、2 年次臨地実習前の特別講義や、3 年次臨床検査総合演習の分野別講義のような集中講義において、本校卒業生を中心に講義や実習を実施した。</p> <p>・主たる外部研修として第 68 回日本医学検査学会に 2 名、日臨技 関甲信支部・首都圏支部医学検査学会(56 回)に 9 名、第 14 回日本臨床検査学教育学会学術大会に 3 名、第 47 回埼玉県医学検査学会に 9 名の教職員が参加し、今後の臨床検査技師の動向を伺い、各専門分野について学ぶ機会とした。</p>	
<p>学 校 関 係 者 評 価 コ メ ン ト</p>	
<p>・全体的に現場主義に特化しているようだ。学生たちに教員ができることは、「自学自習のきっかけを作ること」「目標やテーマを与えること」の 2 点である。学生のレベルや学科により教育活動は異なるにしても、根本的にこれらを重要視した教育活動が必要だと思う。</p> <p>・埼玉県医学検査学会で 3 年生が演題発表を行ったが、これは上記 2 点を学生に与えた大きな教育の成果だと思う。</p> <p>・多くの学校(大学含む)では非常勤講師会は開催されていない。本校では、年 2 回開催され、教育に生かされていることを評価する。</p> <p>・教育レベル、修学レベルの向上のために日々努力されていることがよく理解できた。</p> <p>・非常勤講師や特別講師の授業を内部教員が拝聴(可能なものは受講)し、内容の適正化や助言などを行うことで授業内容の向上を図れるのではないかと。特に特別講義のみの先生などは、内容が学生にあっていいのか自己評価しにくいので、授業評価の実施を望む。</p> <p>・少人数の教職員ではあるがカリキュラムも多く、けして楽に授業を振り分けているとは思えない。各教職員が精一杯であろうから、学生募集と合格率の向上を望むのであれば人員増加、教員増加が急務ではないかと考えている。</p> <p>・授業も何度か見させていただいたが、学生の探求心も高くよそ見する者、無駄な会話をする者も無く、やはり目的意識が高いと感じた。学生一人ひとりに明確な目的と目標があると感じている。この期待には応えなくてはならないと感じている。</p> <p>・講師会や臨地実習施設連絡会などでの意見が教育内容に反映されている。</p> <p>学生が目的を見失わないように、卒業生や現場の生の声を聞く機会が多いことは非常に良いことである。</p>	

#### (4) 学修成果

評価項目	具体的方策と取り組み
<p>・就職率の向上が図られているか</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア教育を各学年で連携して実施することとし、カリキュラムにおける教育は、2年次後期の「臨床検査キャリアデザイン」を中心にして、行事を利用した教育は、8,9月の前期集中授業、2,3月の後期集中授業の中で行っている。</li> <li>・学生の就職活動支援は、担任とキャリア支援担当を中心に、履歴書、自己PR文、小論文などの書き方や模擬面接による指導等を行っている。</li> <li>・求人情報は、病院をはじめ全国より幅広く収集し、学生が集まる1階ロビーに掲示すると共に、就職先施設の方に来校してもらい就職説明会を実施している。</li> <li>・キャリア支援室では、自由に求人情報等を閲覧できるようにし、個別に面接練習を受けられるようにしている。</li> </ul>
<p>・国家試験合格率の向上が図られているか</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床検査技師国家試験の対策として、第3学年後期から国家試験前日まで特別講義や補講を授業時間外にも実施し、学力向上に向けた取り組みを行っている。また、毎月、国家試験模擬試験を実施し、学生自身の成績状態がわかるようにしている。</li> <li>・学生自身に国家試験の過去5年間の試験問題の出題傾向など分析させ、学習の確認として、国家試験過去問題の毎日100問試験や、放課後の個別指導などを行い、国家試験対策を行っている。</li> </ul>
<p>・退学率の低減が図られているか</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年2名体制の学年担任制をとり(1,2年生には更に補助担任1名をつけ)、担任によるショートホームルームを実施し、毎朝の出席確認や生活習慣の指導等を行い、無断での遅刻や欠席が無いよう指導を行っている。また、それ以外に個別面談を年に2回以上実施し、学生の学習及び生活状況を確認し、指導を行うよう努めている。</li> <li>・経済的な部分では、案内があるごとに奨学金を紹介するようにしている。</li> <li>・精神的な悩みをもつ学生を対象に学生相談室を設け、個別に相談を受けている。</li> </ul>
<p>・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨地実習病院への卒業就職者については、本校教職員による各病院へ挨拶回り等の際、検査室責任者から卒業生のことを確認し、それ以外の施設においても、関連学会や研修会にて卒業生の活躍を確認し、卒業生の声を拾うようにしている。また、本校の臨地実習施設連絡会では臨地実習施設の指導責任者より実習生(学生)だけでなく、卒業生等の情報を得て、意見を取り入れるようにしている。</li> </ul>
成 果 と 課 題	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年次のキャリア教育として、前期には学外実習として亀田総合病院臨床検査科の見学、老人福祉施設での接遇体験実習を実施、特別講義では、春日部年金事務所の協力のもと「国民年金講座」の講義を実施し、看護師による「命」を考えてもらう講義や、卒業生による学習アドバイスや臨床検査技師のやりがいについての講義を実施した。後期には、特別講義として、健康維持を目的とし「睡眠学」、「ダイエット」の講義を、臨床検査技師業務の広がりを知ってもらうため「認知症領域検査」、「薬物検査」、「感染対策」などの講義を実施した。</li> <li>・2年次のキャリア教育として、前期には夏期休業中の希望者に対し、病院施設等のインターンシップを実施した。インターンシップには23施設に25名の学生が1~2日間、参加した。その他、前期には病院の次に就職先として多い検査センターの見学を実施し、同じく就職先の1つとして治験関連の「CRCについて」の特別講義を実施した。その他、患者の気持ちを理解するための肝炎患者による特別講演、学園祭内では、来場者の希望者に対して2年生が中心になって健康チェックを実施した。後期には、日臨技 関</li> </ul>	

甲信支部・首都圏支部医学検査学会(56回)に全員を参加させ、今後の臨床検査技師の方向性について考える機会とした。選択科目の「臨床検査キャリアデザイン」では、公立病院、公的病院、私立病院など特徴のある就職先についてグループで調べ、学生発表してもらうことや、履歴書記入法、小論文練習、面接練習を実施した。2,3月の集中授業内で、就職や臨地実習に向けて、技師長特別講演(1名)や校長特別講義を実施し、外部講師によるマナー講習や現場の臨床検査技師による実習を実施した。その上で、客観的臨床能力試験(OSCE)に類似する実技試験および記述試験を実施し、臨地実習への関門とした。

・3年次のキャリア教育として、前期の4ヶ月間臨地実習を実施し、登校日に就職の具体的な面接練習や、病院の技師長に来ていただいていた特別講義(2日間、6名)、就職先の病院や検査センターの就職担当の方に来ていただいていた就職説明会(2日間、8施設)を実施した。また、9月には、2年生に対して臨地実習に行った3年生が各臨地実習先を紹介する臨地実習報告会を実施した(3年生保護者と同時に開催)。後期には第47回埼玉県医学検査学会へ3年生全員参加させ、学生対象セミナーを聴講させた。

・7月3日には本校に日本臨床検査技師会会長が来校し、1,2年生に対し、これからの臨床検査技師について、特別講演をしていただいた。

・2019年度の臨床検査技師国家試験合格者の就職希望者に対する就職率は95.6%(2019年4月末まで)であった。3年生の12月までの内定率(学年総数当たり)は昨年度の25.9%から34.7%と若干増えている。50%を超えることができるよう3年間を通したキャリア教育を更に検討していきたい。

・3年生への国家試験模擬試験は、全国平均がわかるものとして、6回(日本医歯薬研修協会3回、医歯薬出版3回)実施した。また、学内成績がわかるもの(全国平均無し)として、日本臨床検査学教育協議会の模擬試験などを実施した。毎回、学内集計によるものであるが、問題の難易度の指標となる問題の正答率を学生に提示している。難易度の低い問題の正答率100%を目指す教育方法を検討していきたい。

・国家試験の本校の合格率は今年度、新卒者については70.3%であり、既卒者については41.7%であった。前年度に比べ新卒者が23.5%減と大幅に下がってしまった(既卒者は1.7%の若干増)。自己採点で115点以上は新卒者の受験者で87.5%存在し、全国新卒者の合格率は83.1%ということから、国家試験の難易度が5点程度難しくなっていることが考えられ、更に今年度の3年生は不合格ぎりぎりのラインの学生が多くいたことが、合格率が大幅に下がってしまった要因と考えられる。昨年度より卒業率は84.5%から88.9%に上がっていることから、卒業ラインを検討すると共に、単に卒業ラインを上げるのではなく、学生の成績を上げる方策を考えなくてはならない。また、次年度は既卒者の受験生が多くなるため、既卒者の合格率を上げる方策の検討が必要である。

・担任による朝の出席確認では、連絡なく遅刻する学生は、本人や保護者に連絡し、指導を行うようにした。しかし、年間皆勤の学生が1年生は26.7%から38.2%に増加し、2年生は40.8%から28.8%に低下した。学年による差もあるが、出来ない学生の指導だけでなく、皆勤している学生を認めるような取組等の検討が必要と思われる。

・留年、退学は、精神的な問題や、目的意識の低下、学力の低下が主な原因となっている。勉強面では成績不良者に補習を課しているが、気持ちの面でやる気にさせる試みを検討する必要があると思われる。

#### 学校関係者評価コメント

・教職員の並々ならぬ努力が伺える。1年次から3年次迄の学外実習や特別講義など十分考察しつくされた計画になっている。職員の負担は大きなものと推測する。しかしながらそのことが同時に学生の大きな負担になっているのではないだろうか。

・教育活動、教育理念をもう少しゆとりあるものに見直すことにより、更に学習成果が上がるのではないかとと思われる。

・国家試験合格率向上に全学での取り組みを望む。

・臨床検査技師養成施設の学修成果は、外部者からすればまず何よりも国試の合格率をみる。今まで長く90%以上をキープしていたが、当年度に下がってしまったのは残念である。これを端緒として、応募者数の減少→入学者の学力レベルの低下→国試の合格率のさらなる低下という悪循環に陥らないように、新年度はこの点に経営資源を集中投資し、なんとしても合格率を90%以上に上げなければならない。私立学校は学業と経営を両立させなければならず大変だとは思いますが、新年度の成果を期待したい。

・12月時点の就職内定率は50%を超えるよう検討していただきたい。

・1年次からキャリア教育を行っており、力を入れていると思う。健康維持の講義では身近な「ダイエット」を題材にするなど、1年生でも興味がわくような題材を選択している。

- ・平成 27 年度より国家試験合格率が低下傾向である。学生に対し補講や補習以外にオンラインを用いた学習手法（e-ラーニング）などを活用するのも今後検討が必要ではないか。
- ・皆勤率について、2 年生が 28.8%でありこの学年が 1 年生の時が 26.7 であったため、この学年での皆勤率に大きな変動はなかったと推測できる。入学年度別の数値の推移も合わせて評価し、単年ではなく複数年度の皆勤率とばらつきも合わせてみていく必要があるのではないか。
- ・国家試験の合格率が下がったとのことであるが、原因と今後の取り組みを是非、検討していただきたい。
- ・学生指導や補習などを行い、学生へのフォローアップができていますので継続して欲しい。

## (5) 学生支援

評価項目	具体的方策と取り組み
<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路・就職に関する支援体制は整備されているか</li> <li>・学生相談に関する体制は整っているか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任により、定期的に個別面談を行う体制を整えると共に、担任とキャリア支援担当が協力しながら進学相談や就職指導を行っている。</li> <li>・学生相談室を設け、担任以外の職員が学生の個別相談に対応している。</li> <li>・3 年次に、就職先施設に来校してもらい就職説明会を実施している。</li> <li>・就職情報として、求人票の専用掲示板を設け就職活動を支援している。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教務部、事務部に奨学金担当をおき、相談の窓口としている。</li> <li>・日本学生支援機構の奨学金、後援会組織による奨学金制度があり、学生の経済的支援体制の一部として担っている。また、企業や病院の奨学金制度を紹介している。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の健康管理を担う組織体制はあるか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の健康管理のため、年 1 回学生全員の健康診断を行う。</li> <li>・近隣の病院の医師と「学校医」の契約を結んでおり、学生の健康相談などができる体制をとっている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・課外活動に対する支援体制は整備されているか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課外活動については、学生自治会が自主的に運営している学生全員が構成員となる「同好会」と、体育系及び文科系の「クラブ活動」があり、顧問として学校教職員が入り、様々な支援活動を行っている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の生活環境への支援は行われているか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任によりアンケートや面談を行い、生活環境を確認し、学生生活に支障をきたす場合には相談に応じている。必要であれば保護者を含めた三者面談等を行えるような体制をとっている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者と適切に連携しているか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学式においては、新入生の保護者に対し学校説明会の時間を設け、2 年 3 年の保護者には年度始めに、担任より行事予定、時間割を送付している。また、学年ごとに保護者会を開催し（1 年生 2 回、2 年生 1 回、3 年生 1 回）、学校での学生の様子を見てもらうと共に、本学の教育活動の状況の確認と保護者からの助言等をいただく機会を設けている。</li> <li>・各学年の成績は定期試験の後の試験結果を、また各学年終了時に最終成績、学生個人に成績表を配布すると共に、保護者に送付している。成績表送付時に保護者からの相談や面談を受け付けている。また成績不良の学生については、保護者に連絡後、学校側から保護者交えての三者面談をお願いしている。</li> <li>・3 年次の後期は、毎月、国家試験模擬試験を実施しているので、その結果を保護者に送付し、保護者からの相談や面談を受け付けていると共に、成績不良の学生については、保護者に連絡を行うことで、学生の勉強に対して保護者の協力を得るようにしている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業生への支援体制はあるか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業後も就職相談等の連絡に対し、学習支援や技術的指導等を行っている。</li> <li>・国試不合格者に対し聴講制度を設け、8 月より国試対策を実施している。</li> </ul>



<ul style="list-style-type: none"> <li>・同窓会が組織化され、活発な活動を行っているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校と同窓会のつながりを深めていくため、5月の全校生徒によるバーベキュー大会では、同窓会による卒業生ブースを開設している。また、学園祭では同窓生の特別講演、同窓会総会を学内で開催している。</li> </ul>
<b>成 果 と 課 題</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教務、キャリア支援担当が連携し、就職希望者が就職を決めることができた。今後、就職活動の早期化に対応できるよう、学生一人一人にあった支援を行っていききたい。</li> <li>・学生相談室の利用者はなかった。</li> <li>・日本学生支援機構等の奨学金を利用する学生は年々増えており、校内での相談等も増えている。今後は、高等教育無償化制度の導入も含め、担当者を置き対応していく。</li> <li>・クラブ活動などの課外活動を通して先輩後輩のつながりも持て、充実した学校生活を送ることができていると思われる。学生の自主性を育む上でも必要だと考えている。</li> <li>・保護者会に参加していただいた保護者からは毎回好評を得ているが、1年次より2年次、3年次の参加者が少なくなる傾向にある。内容を検討し、多くの保護者に参加していただけるようにしていく必要がある。</li> <li>・定期試験や模擬試験後に成績を送付し、連絡を取るようになっている。また、欠席した学生には本人の指導と、直接担任から保護者に連絡を取り協力と理解を得ている。出席率の改善から成績の向上に繋げていきたい。</li> <li>・本校既卒生12名が国家試験を受験したが、そのうち7名が聴講制度を利用した。全国の既卒生の合格率は11.6%であったが、聴講生の合格率は57.1%(4/7)であった。</li> <li>・同窓会活動に関して、6月のバーベキュー大会参加、9月の学園祭での総会の開催があり、本校職員も参加した。本校の創立50周年記念を数年後に控え、学生への就職支援も含めて、同窓会関係者との会合等の機会を増やし、同窓会活動が活発になるよう、密接な連携を図っていく予定である。</li> </ul>	
<b>学 校 関 係 者 評 価 コ メ ン ト</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職支援、学内活動支援など良く行われている。</li> <li>・学生の経済的支援の取り組みを評価する。更なる情報提供を望む。</li> <li>・聴講生の国試合格率が既卒者の全国平均合格率よりも良かったことから、国試合格率をさらに上げられるように、聴講生制度の利用者の拡大策を検討してみたらどうか。</li> <li>・奨学金利用者、高等教育無償化制度への対応に努めていただきたい。</li> <li>・クラブ活動を通じ、学年を超えた人との繋がりを作る場がある。</li> <li>・「(4)学修成果」で留年、退学の原因の中に精神的問題を挙げているが、学生相談室の利用者はなかった。学生相談室のありかたや意義を再検討し、学生が利用しやすいものに改善する必要があるのではないかと、相談室員に非常勤でも心理士が定期的に勤務できる体制など、精神面の支援の向上を望む。</li> <li>・教育面での支援は他校にない取り組みをしており特に課外での教育支援、就労支援は出来る限りのことを行っていると考える。あとは学生の取り組み方と思われる。</li> <li>・経済激変家庭への学校独自の支援体制は今後しっかりした目的資金をつくり行う必要があると感じる。東日本大震災、新型コロナウイルスなど教訓が得られている。臨床検査技師という社会的に必要不可欠な職業領域の養成機関として経済的な理由から退学することがないようにしたいと考える。現況でも、復学できる体制があり、それを学生に熟知させ、また教職員がよく理解して該当学生に対応してあげていると思うが、一層行って欲しい。</li> <li>・三者面談や学校説明会などで保護者ともコミュニケーションが図れている。さらなる奨学金制度等の充実や成績優良学生に対する学納金一部減免などの制度も検討してもよいのではないかと。</li> </ul>	

## (6) 教育環境

評 価 項 目	具体的方策と取り組み
<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床検査技師学校養成所指定規則及び臨床検査技師養成所指導要領に従い、施設、設備について充分整備を行っている。</li> <li>・日常点検により教室、実習室の点検及び確認を行っている。</li> </ul>

<p>・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生に対して、4月に研修旅行として亀田総合病院の臨床検査室見学を実施し、8月に3年生が臨地実習施設を案内する臨地実習見学会を実施している。また、介護福祉施設での接遇研修を9月に実施している。</li> <li>・2年生に対して、日臨技 首都圏支部・関甲信支部医学検査学会に参加させている。また、希望者に対して夏季休業期間に、病院等の施設のインターンシップを実施し、早期に医療現場の実際について知る機会を設けている。</li> <li>・関東6つの都県の41の臨地実習施設と契約し、3年次前期の約4か月間に渡り臨地実習を実施している。</li> <li>・1,2年次の学生の希望者に対し、カンボジア研修旅行を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染(COVID-19)の影響のため、無期限延期とした。</li> </ul>
<p>・防災に対する体制は整備されているか</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防火管理者講習を受けた防火管理者による消防計画を作成し、内容に変更がある場合はその都度消防署に届け出ている。</li> <li>・防災マニュアルを作成整備し、防災責任者をおき、職員間で防災体制を確認している。また、年1回消防署協力の下、避難訓練を実施している。</li> <li>・1年次にはAED講習を実施している。</li> </ul>
<p>成 果 と 課 題</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・2019年度は、設備として検体検査に関わる部分で、ゲルスキャナー1台、分光光度計1台、HbA1c測定器1台、プレートウォッシャー1台を、生理機能検査に関わる部分で、心電計2台、ベッドサイドモニター1台、オージオメータ1台、嗅覚検査用脱臭装置1台を補充した。</li> <li>・1年生に対し、4月11,12日に研修旅行として、亀田総合病院の検査室見学を実施し、病院内で法人本部の検査管理部長による特別講演を行い、宿泊施設で、元日本臨床衛生検査技師会副会長による特別講演を行った。8月7日に3年生指導による臨地実習見学会を実施した。その準備として8月までに2回、3年生による1年生指導の時間を設けた。</li> <li>・1・2年生に、8月23日に日本臨床衛生技師会会長による、特別講義を拝聴させた。</li> <li>・1年生の9月27,28日に、コミュニケーション能力の向上を目指し、介護福祉施設の見学および入居者の方との会話等を含めた接遇研修を実施した。</li> <li>・2年生に対し、10月26,27日東京都で開催の日臨技 首都圏支部・関甲信支部医学検査学会(56回)に参加させた。</li> <li>・2年生の夏季休業期間におけるインターンシップは、23施設において実施し、2年生で延べ25名が参加した。インターンシップ参加者の後期への意気込みが変化したかどうか、検証していきたい。</li> <li>・9月2日に防災訓練を行った。起震車等、防災体験は少なかったが、日ごろの防災意識を高めることができるのではないかとされる。</li> <li>・4月20,27日に総合教育センターにて、1年生に対してクラス別に4台のAEDシミュレータを使用し、AED講習を実施した。</li> </ul>	
<p>学 校 関 係 者 評 価 コ メ ン ト</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・早期に病院などの現場見学会を実施している。学生の学習意欲が上がり、検査技師になるためのしつかりとした目標が確立できると思う。</li> <li>・特別講義を行う場合や学会への参加は、その目的とそれを行ううえで学生が得ることが出来る成果を十分鑑み、検討する必要があると思う。</li> <li>・厳しいカリキュラムの中、学外教育の取り組みに敬意を評する。更なる活動を望む。</li> <li>・2年生の夏季インターンシップ参加者のその後の学習態度への影響について総括し、よい結果が出ているのであれば、参加人数が多くなるよう推進していくべきだと思う。</li> <li>・毎年実習で用いる設備・機器が補充されている。</li> <li>・卒業後多くの技師が加入する、日本臨床衛生検査技師会催す学会、研修会、講義などに参加する機会を多く設け、卒業後進むべき方向性も教育に取り込んでいる。</li> <li>・1,2年生に対し施設見学や、学会参加など卒業後の技師としてのイメージを持たせるのに有用であると思われるため、今後も継続、充実を希望する。</li> </ul>	

<ul style="list-style-type: none"> <li>・自習支援体制を強化するため、将来的には学校外でのサテライト自習スペースも考えられるのではないか。</li> <li>・基礎学習が足りない学生に対し、徹底的に高等学校レベルから補習している教育体制は、日本の臨床検査技師を養成する学校組織では稀有であると考え。対外的にオープンにすることにより生徒募集につながると思う。</li> <li>・施設や機材の整備が行われていて学習環境が良く整っている。今後は ICT 環境の充実などを検討しては如何か。</li> </ul>
--

## (7) 学生募集

評価項目	具体的方策と取り組み
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組を行っているか</li> <li>・学生の募集活動は適正に行われているか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定員の上限・募集時期を守り、アドミッションポリシーに合う学生の募集を行っている。</li> <li>・高校訪問、会場ガイダンス等で高校教員や入学希望者に対し臨床検査技師についての情報提供を行い、臨床検査技師に適格な人材確保に努めている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校案内については、毎年度各広報媒体の内容を見直し、学年ごとの教育内容、国家試験合格率、就職実績、卒業生の動向など、正確な情報を提供している。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学納金は妥当なものとなっているか。</li> <li>・入学辞退者に対する授業料の返還は適切に処理されているか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他校との比較では、妥当な金額であると考えられる。</li> <li>・入学辞退者に対する授業料等学納金の返還については、適正に経理処理が行われている。</li> </ul>
成果と課題	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校案内・学生募集要項・各広報媒体等は、志願者及び保護者等にできるだけわかりやすいものとなるよう作成しており、高等学校の進学担当教員からも良い評価を得られるよう努めている。</li> <li>・「臨床検査技師」という医療系の専門職についての認知度を高めるための広報活動を強化していく。</li> <li>・2019年度より広報活動の年間計画を立て SNS 等による広報活動を強化した。</li> <li>・2019年度体験入学等の来校人数は、昨年度を上回る 249 名（前年比+37 名）となった。</li> <li>・2020 年度入学生は 57 名と、定員を割る結果となってしまった。安定した学生募集となるように、広報媒体、イベント内容等見直していく必要がある。</li> <li>・学納金の額については、消費税増税等の社会情勢を考慮し見直しを検討する必要がある。</li> <li>・近隣高校の体験授業の受け入れ、また県外高校への出張授業を実施した。</li> </ul>	
学校関係者評価コメント	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「臨床検査技師」という医療系の専門職についての知名度を高めるための広報活動を強化していくとある。大いに進めてほしい。</li> <li>・3 年制専門学校として、3 年間での国家試験受験資格取得の優位性を今以上に協調してはどうか。</li> <li>・広報活動の技術・内容に重点が置かれているようにみえますが、長期的な視点で広報を統括できる適切な人材を養成していく必要があると思う。</li> <li>・体験入学、体験授業、出張授業など策を講じ行われている。</li> <li>・国試合格率、就職率を向上させ、募集の看板文句になれば定員確保も実現するのではと考える。まずは足切をせずに、国家試験合格率 90%以上が学生募集に繋がるものとする。</li> <li>・学生確保に向けて技師会でも高校生向けの講座実施している。教員が埼玉県技師会理事として在籍しているので、技師会活動の際にも学校の PR が実施できないか。</li> <li>・就職において大学卒を募集する施設が増加傾向のなか定員の確保は課題と思われるが、体験入学者は増加しており、学校の認知度向上など成果は伺える。</li> <li>・生徒募集について定員を割ってしまったとのこと。近年広告媒体も劇的に変化しており、何に広告費を</li> </ul>	

費やせば学生が集まるのか不明瞭な部分はあると思う。新型コロナウイルスの国内的なダメージはあるが、これらの検体を採取し臨床検査を行っているのは臨床検査技師であるとの強烈なイメージは、次年度の学生募集にとっては最大のプラス要因になるのではないかと。

- ・高校生が臨床検査技師という進路を見いだせるということはかなり困難であろうと思う。親族に医療関係者がいなければ職業領域としてとらえることは難しいと感じる。臨床検査会社でアルバイトをしている高校生、学生もおり、臨床検査会社が学費を補填しているケースもある。将来的に学生確保するには、準夜間コースで土日と夜間で履修できるコースの創設も視野に入れる必要があるのではないかと。
- ・本校だけの問題ではないが、臨床検査技師の認知度の低さが少なからず影響していると考えられる。技師会や施設協議会への啓蒙活動の積極的な働きかけや、高校生だけではなく高校教員への広報活動を強化していただきたい。

## (8) 財務

評価項目	具体的方策と取り組み
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	・中長期の計画については、特に固定資産（建物、機器備品など）の取り換え更新の時期などを考慮し、減価償却額相当額の資金を蓄えるべく、今後備えるよう努めていく。
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	・当該年度の学納金収入は、在学生及び新入学生の数で見込み額を計上され、当該収入をどのように使っていくのかという観点から、有効かつ妥当な年度当初予算を編成している。 ・当初予算と大きく乖離しないよう予算執行及び管理を行い、また予算計上していない急な支出に対しても、全体的な財務状況と照らし、年度途中で「補正予算」を理事会及び評議員会に諮り、承認を得たうえで執行していくよう努めている。
・財務について会計監査が適正に行われているか	・監査については、予算及び決算に関して、監事が理事会に出席し内容を確認、決算については監事の監査証明がなされている。 ・年2回、公認会計士による定期的な監査を実施しているほか、顧問税理士による監査も実施している。
・財務情報公開の体制整備は出来ているか	・自己点検及び評価報告書をホームページに公開しており、2019年度は財務状況の情報公開を行った。
成 果 と 課 題	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・2019年度は、文部科学省の補助事業の申請が認められ、A棟の外壁の修繕工事を実施した他裏門門扉ブロック更新工事など学校運営の事業継続に必要な改修工事の他、ゲルスキャナーや分光光度、HbA1c測定器など教育機器の充実の為に支出を行い、いずれも予算通り有効かつ妥当に執行された。</li> <li>・昨年度に引き続き、減価償却引当の特定資産として減価償却額の一部を積み立てることが出来た。次年度以降の減価償却引当への資金確保にも努めていきたい。</li> <li>・予算執行については、2度の補正予算を行い、予算額との大きな乖離がなく執行できた。</li> <li>・財務の会計監査については、監事の監査及び公認会計士による定期的な指導を受け適正に処理されている。</li> <li>・2021年4月に50周年記念事業を予定している。そのため、2019年度より本学卒業生や在校生保護者といった主に個人を対象に当該事業の寄附金募集を開始した。多くの方からご寄附をいただけるよう埼玉県より特定公益増進法人としての認定を受けていることを周知し、寄附金を獲得した。今後は、個人の寄附に加え、寄附した法人にメリットがある日本私立学校振興・共済事業団の受配者指定寄附金事業として積極的に法人へ周知し、さらなる寄附金獲得を目指していきたい。</li> <li>・今後も文部科学省や埼玉県の補助事業等を確認し、本校の事業計画と合致する場合、補助金を獲得できるよう計画調書等を提出し、確実な資金確保と事業遂行を行いたい。</li> </ul>	

### 学 校 関 係 者 評 価 コ メ ン ト

- ・健全な財務基盤のため、あらゆる寄付金獲得に努めてほしい。
- ・50周年記念事業寄付金の募集について、当年度は個人の寄付に注力し、今後は法人や企業、団体にとのことだが、ある程度の金額を期待する場合、事前に理事者等が先方役員と接触し、「年度予算」に計上してであると円滑に動くのではないかと。
- ・実習に使う機器の入れ替えが毎年行われている。
- ・予算のとおり学習環境が整理され学校財務の安定化が伺える。今後も適正かつ有効に学習環境が整備されるよう予算の策定を実施されることを望む。
- ・財務監査と財務管理は厳格かつ適正に行われている。公認会計士、税理士による監査と管理を実施しており年度末には監事による監事監査も実施している。公認会計士、税理士による財務管理に対する指摘事項は特段の問題点はないという評価である。
- ・埼玉県が求める会計に関する帳票類、財務諸表は完備されておりいつでもステークホルダーに閲覧可能である。
- ・経営分析をしても負の結果にはなっていないので良好と評価できる。また、経理担当者も積極的に財務セミナーやプログラム操作セミナーなどに参加しており職業意識も強く持っている。
- ・財産関係書類は適切に処理されており、閲覧も規定に基づいて可能となっていることは十分に評価できる。

### (9) 法令等の遵守

評 価 項 目	具体的方策と取り組み
・法令、専修学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか	・この自己点検評価を行う際に、法令、専修学校設置基準に従っているかどうかを確認しており、適正な運営に努めている。
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生に関しては、個人情報保護についてのガイダンスを行っており、日本看護学校協議会共済会の「SNSにおける個人情報取り扱いガイドブック」を配布し、注意喚起している。</li> <li>・学生募集の段階から個人情報をクラウド上のシステムで一元管理し、出欠や成績等も同じシステムで管理できるようにしている。</li> <li>・就業規則に「個人情報保護」に関する項目を規定し、また、マイナンバー法に基づく「個人番号及び特定個人情報取扱規則」を制定し、個人情報の保護対策を講じている。</li> </ul>
・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	・自己評価委員会にて評価を行い、問題点について各部署の責任者に提示し、改善を促している。
・自己評価の結果を公開しているか	・内部での評価をホームページ上で公開している。
成 果 と 課 題	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生管理システムによる募集情報・学生情報の管理について、より効率化と安全な運用に努めた。</li> <li>・自己点検評価を年度の早い時期に実施し、結果の公表も速やかに行う必要がある。</li> <li>・マイナンバーに関しては、規程を定め担当者のみが取り扱うよう厳重に管理し、個人情報保護に努めている。</li> <li>・情報機器管理規程の策定及び教職員 PC の暗証番号ロック設定等、情報管理を強化し情報流失しないよう管理体制の強化を実施。</li> </ul>	
学 校 関 係 者 評 価 コ メ ン ト	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価委員会で問題を指摘された事項についてはよく改善されている。</li> <li>・教職員（非常勤講師含む）、学生の法令遵守講習会の開催を望む。</li> <li>・ソーシャルメディア利用ガイドラインを策定したが、リスクコントロールとして顧問弁護士による対応等を考えておく必要がある。</li> </ul>	

- ・学生管理システム、マイナンバーの取扱い、担当などを決めるなど、個人情報の取扱いには留意されている。
- ・個人情報の取り扱い環境の整備、セキュリティの強化がなされており、取扱いに関して十分に必要な措置は取られていると考える。
- ・学校法への適応は出来ていると評価できる。労務管理もしっかりと法改正に応じた就業規則の改定や追加もしていると考えられる。パワハラ、モラハラ、セクハラへの就業規則整備は早くから行われており、法令順守と対応は早期対応をしていると評価できる。

## (10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	具体的方策と取り組み
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	・学園祭の中で、来場者の方に対し、健康チェックを行っている。また、地域イベントに参加し、イベント来場者の方に対し、健康チェックを行っている。
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	・地域で行われている行事に学生からのボランティアを募り、参加させるようにしている。
・地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか	・関連団体や、病院関係からの依頼があれば、本校の会場貸し出しや、学会・講演会の協力を行うようにしている。
成果と課題	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・9月21～22日に行われた学園祭の中で、来場者に対し、教職員の指導のもと、学生が主体となって無料の健康チェックを行った。また、11月3日に地域のイベントの「市宿のいち」において本校のブースを構え、8名の学生ボランティアと共に、教職員5名が参加し、地域の方々に対し、無料で健康チェックを行った。</li> <li>・11月16日～17日、第1回郷土そばフェスタにおいて、会場案内や配膳など行うボランティアを、学生16名（1年生8名、2年生8名）が参加した。</li> <li>・12月8日に行われた「さいたま国際マラソン」において、参加者ランナーの給水等の補助を行うボランティアを、学生47名（1年生21名、2年生26名）が参加した。</li> <li>・公益社団法人埼玉県臨床検査技師会主催の一般検査研究班研修会が6月30日に、輸血検査研究班研修会が7月14日に本校を会場として開催された。準備期間を含め、6月29日と、7月13日の4日間、無料で会場の貸出を行った。</li> <li>・2月22～23日の2日間、岩槻区の区民総合文化芸術祭にて、本校のブースを構え、8名（各日4名ずつ）の学生ボランティアと共に、教職員4名（各日2名ずつ）が参加し、地域の方々に対し、無料で健康チェックを行った。</li> </ul>	
学校関係者評価コメント	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアなどの奨励はよくできている。</li> <li>・地域で行われているイベントに積極的に参加することで、地域貢献のみならず、検査技師の認知度を高めるための広報活動につながっていると考える。</li> <li>・文化祭は学生の学習成果発表の場や学校間の交流のみならず、地域貢献や広報にも役立っている。そのため学生自治会と担当職員が協力し、学校の支援を充実することによってもう少し盛り上げる必要があるのでは。</li> <li>・社会貢献の努力を認める。今後のさらなる活動を期待する。</li> <li>・もし可能であれば、本学主催の公開講座の開催を検討してみてもどうか。時宜を得たテーマ（例えば老人病・感染症・PCR検査等）で、これを地域の情報紙に載せてもらえれば、広報の一助にもなると思われる。</li> <li>・ボランティアについては、自分の行ったさりげない行為が他人にとってはとてもありがたいこともある。そんな感謝されることを実感することで、やる気スイッチが入る学生もいると思う。継続を希望す</li> </ul>	

る。

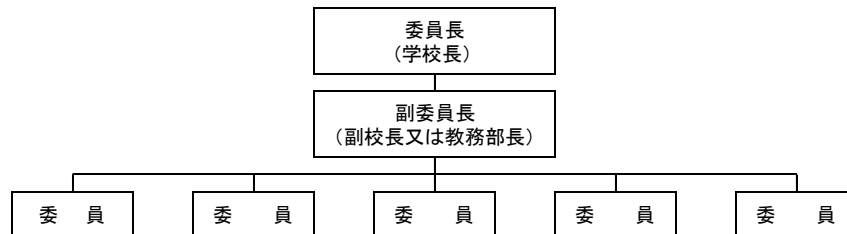
- ・地域住民向けのイベントを技師会、同窓会、学校が合同で、学校主催で実施してもよいのではないか。
- ・オープンスクール、学園祭などで臨床検査について地域住民や進学希望者に実体験させており非常に良い試みであると考え。この試みはホームページでも紹介されており興味のある方は自由参加できるとの事なので広く社会貢献していると思われる。

## (11) 国際交流

評価項目	具体的方策と取り組み
<ul style="list-style-type: none"><li>・留学生の受け入れ、派遣について、戦略をもって国際交流を行っているか</li><li>・受け入れ派遣等において適正な手続き等がとられているか</li><li>・学修成果が国内外で評価される取組を行っているか</li><li>・学内での適切な体制が整備されているか</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・現地における病院事情や、現地学生との交流を目的として、3月中旬から後半にかけて、1年生、2年生の希望者に対し、カンボジアへの研修旅行を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染（COVID-19）の影響のため、無期限延期とした。</li><li>・学修成果が国外で評価される取組や、留学生の受けや入れは、現在行っていないが、国内の学会において学生の発表を促している。</li></ul>
<b>成 果 と 課 題</b>	
<ul style="list-style-type: none"><li>・3月15日から20日の4泊6日の日程にて、カンボジア研修旅行を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染（COVID-19）の影響のため、無期限延期となった。次年度は、学生負担軽減を検討し、実施していきたい。</li><li>・現在は、臨床検査技師としての在留資格が認められていないため、留学生の受け入れができていない。</li><li>・学習成果については、学園祭にてポスター発表を行い、学内での研究発表会（第13回）にて講演形式の発表会を実施している。3年生から1名、埼玉県医学検査学会で演題発表を行った。</li></ul>	
<b>学 校 関 係 者 評 価 コ メ ン ト</b>	
<ul style="list-style-type: none"><li>・多くの学生が参加できる国際交流の再開を強く望む。</li><li>・国際交流を自己評価項目とする必要があるとすれば、余り手を広げずに本学としてできる範囲の行事を実行していけばよいのではと思う。</li><li>・留学生の受け入れができない現状を考慮すると、現在のような海外研修の形になると思う。課題にあるよう、学生の負担を軽減し、多くの学生が経験できるよう考えていただきたい。</li><li>・現在の情勢での海外研修は難しいものがあるが、webを介し海外の医療の情勢を体験できる機会を学生に与えてもよいのではないか。カンボジア以外の国でも学生にとっては日本の医療との違いに触れる機会は、卒後は少ないと思われるため、在学中に実施するよう検討を期待する。</li><li>・海外研修旅行は時間の制約や経済的な負担となり参加者が少ない傾向にあるので、ICTなどを活用し、海外施設との定期的な交流会などを行うことで時間的な問題や経済的な負担を減らすことができるのではないか。</li></ul>	

2020 年度 東武医学技術専門学校 学校評価組織図

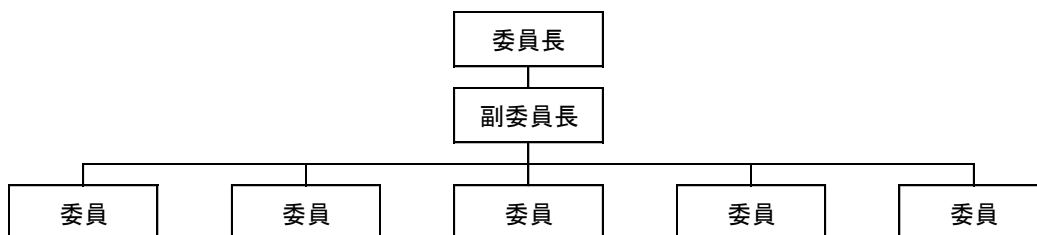
自己評価委員会



任期：2021年3月

	氏名	職名等
委員長	石橋 佳朋	学校長
副委員長	安田 富子	教務部長
委員	伊藤 恵子	教務主任
委員	宮田 浩	常勤講師
委員	渡邊 展良	事務長
委員	渡部 絵美	室長
委員	菅沼 寛之	事務主任

学校関係者評価委員会



任期：2021年3月

	氏名	職名等	区分
委員長	安田 武司	法人評議員	教育に関する知見を有するもの
副委員長	堂満 憲一	法人評議員	臨床検査技師
委員	伊藤 幸雄	伊藤公認会計士事務所 公認会計士	学校長が必要と認めたもの
委員	猪浦 一人	埼玉県済生会栗橋病院 技師長	本校同窓生
委員	菊地 雅寛	佐野厚生総合病院 臨床検査技師	本校同窓生
委員	丸山 一之	丸山税理士事務所 税理士	学校長が必要と認めたもの
委員	渡辺 篤志	杏林大学 講師	教育に関する知見を有するもの